

# 服装及び色彩に対する評定の再現性

## Reproducibility of Clothing and Color Evaluation

(2000年3月31日受理)

宇野 保子 福井 典代  
Yasuko Uno Michiyo Fukui

Key words : 服装評価 clothing evaluation, 色彩評価 color evaluation  
個人内の再現性 intra-individual consistency

### 1. 緒 言

これまで服装に対する評定の個人内の再現性を一連の研究課題とし、前報では、服装写真を刺激として同じ評定を2度行い、その評定値の再現性を測定し、再現性の良否が評定値に与える影響を検討してきた。

本報では、同様の手法を用いて、服装および色彩に対する評定値の再現性を測定し、服装と色彩に対する評定の再現性に違いがあるかどうかを検討した。

### 2. 方 法

#### 2-1 評定方法

評定は、平成11年7月、中国地方の女子短大生80名を対象に、4種類の服装、4種類の色彩を刺激として、12のSD尺度(7段階)を用いて行った。

評定尺度は、先行研究も参考に、イメージ測定尺度、デザイン要素測定尺度、総合尺度の3要素を含む12項目とした。

(表1)

評定に用いた4種の服装は、学生や、彼らと同年齢の者を対象として企画販売されている服装を装着したスナップ写真を利用し、着用者の顔を記号で隠蔽し、大きさをそろえてA4判のカラー写真に統一した。試料として用いた服

表1 評定尺度

1. 若々しい-大人っぽい
2. 暖かい-冷たい
3. かたい-やわらかい
4. 派手な-地味な
5. はっきりした-あいまいな
6. 上品な-下品な
7. 軽い-重い
8. 明るい-暗い
9. 静的な-動的な
10. 陽気な-陰気な
11. 優雅な-俗っぽい
12. 好き-嫌い

装写真は

- 服装1 白いTシャツとエンジのセミタイトスカート
- 服装2 黄色地に白い水玉模様のシャネル型スーツ
- 服装3 民族調プリントシャツとブルージーンズ
- 服装4 紺地ワンピースとシャツブラウスのアンサンブル

の4種類である。

色彩は日本色彩研究所のトータルカラー65色から次の4種を提示試料として用いた。

- 色彩1 ライトグレイッシュトーン 58 うらはいろ
- 色彩2 ビビットトーン 13 むらさき
- 色彩3 ビビットトーン 1 あか
- 色彩4 ダークトーン 41 ちゃいろ

評定については、各評定者に、色彩1、服装1、色彩2、服装2、色彩3、服装3、色彩4、服装4と評定尺度の記入表がこの順でセットされた8枚1組のシートを配布し、1ページから順に評定するように指示した。1回目の評定の後、一週間後に同一評定者に同様の方法で2回目の評定を行った。用いた評定用紙は、表2のとおりである。

表2 評定用紙

	非 常 に	か り	や り	い ど え ち な い も	や り	か な り	非 常 に
若々しい							大人っぽい
暖かい							冷たい
かたい							やわらかい
派手な							地味な
はっきりした							あいまいな
上品な							下品な
軽い							重い
明るい							暗い
静的な							動的な
陽気な							陰気な
優雅な							俗っぽい
好き							嫌い

服装

色彩

## 2-2 分析方法

2-1の方法で実施した2回の評定結果を入力データとして、次の3つの分析により再現性を検討した。

### 1) 評定者別評定値の再現性

80名の評定者について4服装4色彩12尺度の1回目と2回目の評定値の差の絶対値を求めこ

それを1評定者ごとに平均化した、評定値の平均距離を算出する。

さらに、服装と色彩に対する評定に違いがあるかどうかを確かめるためにt検定を行う。

2) 評定尺度別の相関係数

4服装12尺度ごと、4色彩12尺度ごとの80名の評定者の1回目と2回目の評定値の相関係数を算出する。

3) 服装別、色彩別の相関係数

評定者80人の4服装4色彩12尺度の1回目と2回目の評定平均値を使った、服装ごと、色彩ごとの相関係数を算出する。

なお、統計ソフトは、SPSS6.1j for windows を使用した。

### 3. 結果および考察

#### 3-1 評定者別評定値の再現性

80名の評定者を対象として4種類の服装、4種類の色彩を12のSD尺度を用いて、1週間の間隔をおいて2回測定した。その4×2×12個の各評定値に対して評定者別に1回目と2回目の評定値の差の絶対値をもとめ、これを1評定当たり平均化した値すなわち「評定値の平均距離」を算出し、この値を再現性の指標として用いた。同様に4種類の色彩4×12個の評定値に対するこの値、4種類の服装4×12個に対するこの値を算出し、色彩に対する再現性、服装に対する再現性を検討した。

80人の評定者の色彩と服装を合わせた平均距離をヒストグラムに表すと図1のようになる。評定値の平均距離は0.32から1.97の範囲に分布し、全評定者の平均は0.83であった。これにより、2回の評定値

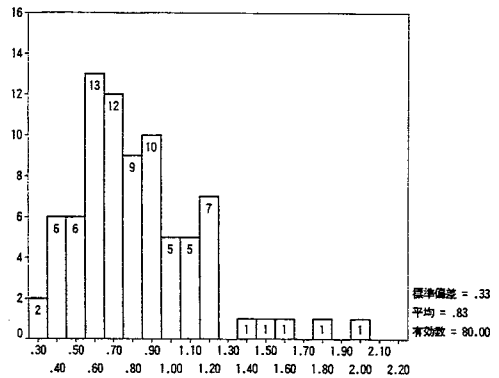


図1 評定者別評定値の平均距離

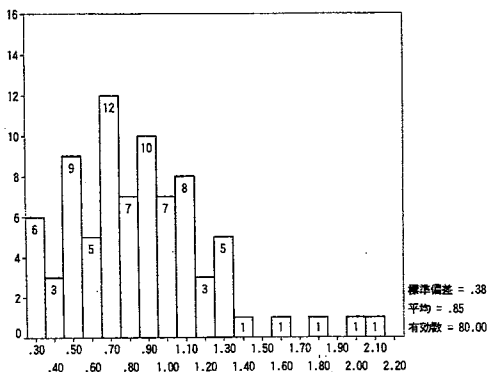


図2 評定者別評定値の平均距離 服装

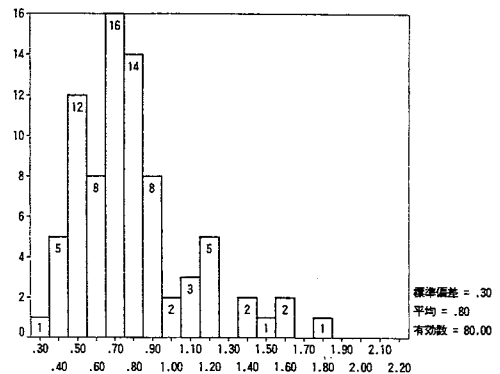


図3 評定者別評定値の平均距離 色彩

間の差が7段階尺度の1目盛りよりもやや小さい程度である事がわかる。

色彩については図2の通り、0.25~2.10の範囲に分布し平均で0.85、服装については図3の通り0.35~1.83の範囲に分布し平均で0.80であった。

服装と色彩に対する評定の平均距離に違いがあるかどうかを確かめるt検定では、 $t = 2.16$  ( $P < 0.05$ ) で、有意差が認められた。

女子学生を対象とした評定では服装よりも色彩の方が評定値の再現性が高く、バラツキも少ないことがわかった。

### 3-2 評定尺度別の相関係数

評定尺度別の再現性を検討するため、評定者を観測回数として各服装、色彩に対する各評定尺度別に相関係数を算出した。その結果を表3（服装）表4（色彩）に示す。

表のとおり相関係数は広い範囲に分布するが、服装の場合、最も小さい値が服装2に対する「暖かい-冷たい」の0.18、大きい値が服装3に対する「好き-嫌い」の0.77であった。

色彩の場合は、相関係数が最小の値をとるのが色彩3に対する「はっきりした-あいまいな」の0.22であり、最大は色彩1に対する「好き-嫌い」の0.86であった。

これを評定尺度別の平均値でみてゆくと、色彩で0.42から0.72、服装で0.33から0.69となり、総じて服装よりも色彩のほうが相関が大きくなった。

また、色彩、服装のいずれの場合も

「好き-嫌い」の総合評定尺度で高い相関がえられた。本報のような女子学生を対象とした服装評定の場合総合尺度は、再現性の高い尺度といえる。この理由としては、総合尺度の場合、服装や、色彩を全般的な視点から評定することになり、各評定者が明確な評定基準をもつため、1回目と2回目の評定でその基準が大きく異なったものとはなりにくいこと、「好き-嫌い」の尺度への評定は、他の評定よりも印象に残り記憶しやすいことなどが考えられる。

表3 評定尺度別の服装の相関係数

尺度	服装	1	2	3	4	平均
1	若々しい-大人っぽい	0.40	0.34	0.42	0.44	0.40
2	暖かい-冷たい	0.43	0.18	0.57	0.63	0.45
3	かたい-やわらかい	0.34	0.60	0.32	0.30	0.39
4	派手な-地味な	0.51	0.44	0.47	0.50	0.48
5	はっきりした-あいまいな	0.30	0.39	0.30	0.34	0.33
6	上品な-下品な	0.35	0.41	0.40	0.48	0.41
7	軽い-重い	0.53	0.66	0.51	0.47	0.54
8	明るい-暗い	0.50	0.75	0.52	0.60	0.59
9	静的な-動的な	0.57	0.58	0.45	0.39	0.50
10	陽気な-陰気な	0.45	0.46	0.51	0.36	0.45
11	優雅な-俗っぽい	0.44	0.50	0.42	0.47	0.46
12	好き-嫌い	0.72	0.66	0.77	0.61	0.69
						0.47

表4 評定尺度別の色彩の相関係数

尺度	色彩	1	2	3	4	平均
1	若々しい-大人っぽい	0.51	0.60	0.31	0.61	0.51
2	暖かい-冷たい	0.45	0.49	0.67	0.57	0.55
3	かたい-やわらかい	0.39	0.54	0.59	0.28	0.45
4	派手な-地味な	0.51	0.56	0.30	0.44	0.45
5	はっきりした-あいまいな	0.52	0.56	0.22	0.59	0.47
6	上品な-下品な	0.69	0.61	0.37	0.59	0.57
7	軽い-重い	0.47	0.42	0.43	0.42	0.44
8	明るい-暗い	0.42	0.40	0.43	0.44	0.42
9	静的な-動的な	0.60	0.48	0.52	0.61	0.55
10	陽気な-陰気な	0.61	0.42	0.44	0.41	0.47
11	優雅な-俗っぽい	0.66	0.43	0.45	0.44	0.50
12	好き-嫌い	0.86	0.74	0.61	0.71	0.72
						0.51

### 3-3 服装別、色彩別の相関係数

服装、色彩に対する全評定者の評定平均値を入力データとして用い、評定尺度を観測回数として各服装、各色彩の相関係数を算出した。その結果を表5、表6に示す。いずれも1に近い値を示し、評定尺度別の相関係数では、最小から最大まで広い範囲に分布したが、評定平均を用いると大きな相関が得られることが分かった。これは入力データが評定平均値であって、ばらつきが小さいこと、データ数が小さいことなどによると考えられる。

表5 服装ごとの評定平均値の相関係数

	服装1	服装2	服装3	服装4
相関係数	0.96	0.98	0.98	0.99

表6 色彩ごとの評定平均値の相関係数

	色彩1	色彩2	色彩3	色彩4
相関係数	0.98	0.96	0.99	0.97

## 4. 要 約

服装および色彩に対する評定値の再現性が個人によってどのように異なるか、また服装と色彩ではその再現性の良否に違いがあるかどうかを検討するために、同一の評定者に、一週間の間隔を置いて同じ評定を2回行った。

各評定者ごとに1回目と2回目の評定値間の平均距離を算出した結果、その値は0.32~1.97間で分布し、評定者平均は0.83であり、7段階評定の1目盛りよりやや小さな値であった。また、この服装別、色彩別の値は0.85、0.80で、服装よりも色彩の平均距離が有意に小さく、再現性が高いことがわかった。

各SD尺度別に算出した1回目と2回目の評定値の相関係数は0.33~0.72、平均が0.49であった。服装別、色彩別のこの値の平均は、0.47、0.51で、総じて色彩の方が大きな値となった。

評定平均値を代入して各服装別に算出した相関係数は、服装、色彩ともに0.96~0.99と高い値となり、評定平均値を用いた場合高い再現性が得られることがわかった。

終わりに、この研究をご指導頂きました鳴門教育大学教授藤原康晴先生、調査にご協力頂いた学生諸姉に感謝致します。本研究の概要は、第46回日本家政学会、中国・四国支部研究発表会（徳島）において発表した。

## 引 用 文 献

- 1) 藤原, 宇野, 中川, 福井: 服装に対する評定の個人による再現性の違いとその評定値への影響, 日本家政学会誌**50**(10), 1071-1077(1999)
- 2) 岩下豊彦: SD法によるイメージの測定, 川島書店, 1983
- 3) 速水敏彦: 大学生における再検査効果の生起, 心理学研究, **49**(3), 163-166(1978)

- 4) 長谷川博一：自己評価の水準と項目評価性が再検査効果に及ぼす影響，心理学研究**66**(2) 141-145(1995)
- 5) 長谷川博一：再検査効果と項目再認記憶の関係について，心理学研究**68**(5)，417-422(1997)